

## 臨床研究に関する情報公開

福井県立病院消化器内科では、倫理委員会の承認を得て、下記の臨床研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成 26 年 1 月 福井県立病院消化器内科

【研究課題名】 早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術後の *Helicobacter pylori* 除菌の成否別にみた適正内視鏡検査間隔に関する retrospective な観察研究 (平成 25 年度 倫理委員会承認番号 13-37)

【研究期間】 平成 26 年 1 月～平成 26 年 3 月

【研究の意義・目的】 近年、早期胃癌の患者さんに対して、内視鏡による切除(内視鏡的粘膜下層剥離術)が行われています。これは外科手術と比較して侵襲が少なく、胃を温存できる事において優れている治療法とされています。一方で治療後の残存した胃には、がんの再発(異時性多発胃癌)が多い事が知られており問題となっています。

ヘリコバクターピロリ(*Helicobacter pylori*: HP)陽性の患者さんに内視鏡治療後にピロリ菌除菌を行うと胃癌の再発が抑制されていることが報告されました。しかし、他の報告ではがんの再発率は変わらないとするものもあります。いずれにしても、治療後も定期的な内視鏡検査が必要と考えられます。治療後の内視鏡検査の間隔は 1 年ごとが妥当ではないかとする報告がありますが、一定の決まりが無いのが現状で 1 年以上の経過をみて検討されたものはありません。

そこで、早期胃癌内視鏡治療後患者さんの異時性多発胃癌を調査し、ピロリ菌除菌の成否別に分け 1 年毎の内視鏡検査の妥当性を検証し、その特徴を明確にすることで治療成績のさらなる向上を目指すことを目的として本研究を行うこととなりました。

なお、この研究は日本内視鏡学会北陸支部の多施設共同研究として、複数の施設で行われるものです。

【対象】 2002 年 1 月から 2012 年 12 月までに早期胃癌に対して粘膜下層剥離術による治療を受けられた方

【研究の方法】 腫瘍の部位や大きさ、ピロリ菌除菌の有無、成否、内視鏡が行われた間隔などの、データを解析します。但し、非同意の意思表示がなされた場合には解析をいたしません。また、後に非同意を申し出られた場合にも解析対象からはずします。ご不明な点などありましたら、消化器内科の担当医までお気軽にお尋ねください。

【研究組織】 実施責任者 福井県立病院 消化器内科 医長 波佐谷 兼慶

研究分担者           "                               "                               "                               青柳 裕之

                          "                               "                               "                               林 宣明

                          "                               "                               "                               藤永 晴夫

【本研究に関する問い合わせ先】 本研究は個人情報厳重に保護して行います。なお、本研究や保有する個人情報に関するお問い合わせ等がございましたら下記へご連絡ください。

研究実施機関名 福井県立病院 消化器内科

### ○問い合わせ窓口○

福井市四ツ井 2-8-1 福井県立病院 消化器内科 医長 波佐谷 兼慶

電話 0776-54-5151 FAX 0776-57-2945